

一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸
2022年度 第1回 キャリア委員会
議事録

開催日時：2022年5月13日（金）15:00～17:00 対面+zoom

開催場所：兵庫国際交流会館 研修室1（兵庫県神戸市中央区脇浜町1-2-8）

出席校（委員、代理）：

◎関西学院大学・聖和短期大学（村田理事長（zoom参加）、森、兼坂）、
○関西福祉大学（末政）、○甲南女子大学（森本、深澤）、○神戸国際大学（小林、犬飼）、
芦屋大学（中村）、大手前大学・大手前短期大学（坂本、浅井）、甲南大学（天羽）、
神戸海星女子学院大学（白石）、神戸学院大学（鴻上）、神戸松蔭女子学院大学（山田）、
神戸親和女子大学（宮内、實安）、神戸大学（田中、長塚）、
神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部（木村）、
園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部（大野）、兵庫県立大学（三嶋、片山）、
流通科学大学（屋久）、関西国際大学（zoom参加）

※ ◎は委員長校、○は副委員長校 ※ 敬称略

欠席校：姫路獨協大学、兵庫県立大学・兵庫大学短期大学部

事務局：関西学院大学（本荘（zoom参加）、永野）

大学コンソーシアムひょうご神戸（阿久根、山崎、佐藤、日出嶋、森本、大濱）

I. 懇談事項

1. 県内企業とのマッチング事業について

II. 報告事項

1. 2022年度キャリア委員会委員校について (資料1)
2. 事業委員会運営に関する申し合わせについて (資料2)

III. 協議事項

1. 2022年度キャリア委員会事業計画（案）について (資料3)
 - ① 大学キャリアセンターと連携した県内大学生の地元就職促進プロジェクト
 - ② 県内企業・大学等の魅力を情報発信
 - ③ 留学生向け就職支援・キャリア教育プログラム（ひょうご留学生インターンシップ）
 - ④ 留学生向け就職支援・キャリア教育プログラム（県内企業海外事業展開に係る留学生生活用事業）

IV. 連絡・調整事項

1. 2022年度のキャリア委員会開催予定と主な議題について
 - 第2回委員会 10月：2022年度プラットフォーム型申請に向けた実績と自己評価（案）について
 - 第3回委員会 12月：2022年度事業自己評価（案）について
 - 第4回委員会 2月：2023年度事業計画・予算（案）
 - 第5回委員会 3月：2022年度事業報告・決算（案）

<資料一覧>

- （資料1）2022年度 キャリア委員会名簿
（資料2）事業委員会運営に関する申し合わせについて
（資料3）2022年度 キャリア委員会 事業計画（案）①～④
（参考資料1）2022年度 キャリア委員会 事業予算
（参考資料2）中長期計画Ⅱ期について

I. 懇談事項

1. 県内企業とのマッチング事業について

村田理事長より、県内企業とのマッチング事業についての経緯説明と提案があった。

【課題・背景】

①現在コンソ賛助会員企業にメリットとなるサービスを提供できていない、②兵庫県における人口の社会減に対するマッチングが上手くできていない、③県内にある優秀な企業が学生に知られていない、等の問題があり、これは兵庫県・大学・地方創生の課題である。県内賛助会員企業との懇談会においても県内企業への就職の在り方が話題となっていた。(コンソの安定的運営の実現に向けた方策の検討も必要)。

【提案】

賛助会員企業と大学キャリアセンターをコーディネートして、賛助会員企業・大学・学生・コンソ・兵庫県に新しい価値を創造する「エージェントを利用した県内賛助会員企業とのマッチング事業」を提案

【経緯】

3月14日の理事会に諮り、森委員長への相談を通じてこの役割を担う人物に出会い、打合せを重ね、現在、具体的な案を整えつつある。

【内容】

コンソとエージェントが契約を結び、コンソに特化したエージェント活用の独自モデル作り、キャリア委員会の元でキャリア委員会の決定に従ってコーディネートを行う。エージェントは賛助会員・コンソ・大学を結び、コンソ加盟大学の学生が企業にインタビューし紹介するなどの学生の活動を通して賛助会員企業のニーズを探し出し、学生目線で魅力を発信・周知することで学生のニーズを高める。その一連のやり方・方法・進め方をコーディネートし就職にも繋げていく仕組みとする。

【ねらい・期待される効果】

- ・コンソ、加盟大学、学生、会員企業、兵庫県の価値を高める。
- ・各大学の採用ブランディング力向上、各企業のブランド力向上、賛助会員企業でのインターンシップ活性化
- ・ひょうごコンソモデルとして確立することで、全国のコンソに向けた大きなインパクトとなり、地方創生の要である人材育成や企業の再活性化、若者人口流出抑制に繋がっていくことが期待できる。

【キャリア委員会の役割】

各大学がやりやすい形となるよう、キャリア委員会にて各大学の要望を聞きながら仕組みを構築していく。各大学キャリアセンター、コンソ、賛助会員、兵庫県の課題は若干異なるが、大学とコンソがやることが矛盾しないよう、そこをどううまく調整していくのかを考えながら考えていく。小さく生んで大きく育てる。

【補足説明】

関西学院大学本荘課長より以下のように補足説明があった。

現在キャリア委員会事業で様々なプログラムを実施しているが、賛助会員に特化したものではないという現状認識があり、賛助会員に価値を提供するための可能性として、1.県内企業のブランディング動画作成、2.学生との早期接点づくり、3.採用コストの削減、4.大学との深い接点づくり、5.他社(会員企業)との連携強化、6.採用部署の強化(採用力強化講座の実施)などが考えられる。キャリア委員会にて賛同が得られれば、次回以降のキャリア委員会で各メニューについて相談したい。

<委員からの意見>

県内企業情報強化への期待：

- ・地元で働きたい学生が多いが、探せない・探したいのに探せないというのが大きな問題のため地元企業を知る機会があるのはありがたい。圏域に特化した優良企業が参加する合説であればぜひ学生を大勢連れて行きたい。
- ・兵庫県内企業情報 HP は学生の役に立っている。賛助会員企業情報との棲み分けをどうするか。
- ・大学として既にエージェントを活用している。就職活動が長期化していることや、早期であればたくさんの企業を紹介できるので早期のマッチングは有効と考える。コンソのエージェントとの提携も有効活用したい。
- ・学内で兵庫県内企業ガイダンスを予定中。OBOG と繋ぐことを大切にして先輩からの話をしてもらっている。
- ・OB がいる会社では、ES を免除してもらい面接から入れるようにしてもらっている。OB の力を実感している。
- ・兵庫県内に BtoB でいい企業はたくさんあるが、それをどう学生に伝えるか、北播磨とか丹波で働く魅力をどう伝えるかが課題。

県内就職実態把握の必要性：

- ・ 県外流出の課題設定をどうとらえるかを考えるのが重要。兵庫在住の学生が他県に行ってしまう数と、他県から兵庫の大学に来て留まってくれる数をより精緻に出して、留まるかどうかを見る必要がある。なぜ流出するのか？という要因分析が必要。他県からわざわざ兵庫の大学に来てもらっているのでその学生が留まる施策を。
- ・ 県内就職の調査は、以前の議論にも出ていたので、しっかりして把握しないといけないと思っている。
- ・ 県内就職率のカウント方法も問題。本社所在地ではなく実際に働く場所であればもう少し数字は上がる。
- ・ 阪神間というのは学生にとって大阪でもあり神戸でもある。地理的に学生に兵庫県を向かせるのが難しい。

学生にインパクトある施策への要望：

- ・ 学生にとって顕著なメリットを設定しないと、価値ある施策としても学生が見向きもしてくれない懸念がある。例えば、兵庫県域出身学生の優先採用枠を作る（この仕組みでコーディネーターがマッチングを高めてくれたとしても、結局一般の選考スケジュールに乗ってはねられてしまうということがあっては残念）。奨学金の一部肩代わり（特定の業界や企業・自治体においては一部奨学金を肩代わりするところがある）など。
- ・ 県内に就職して欲しいので、兵庫県内学生の優先採用枠など企業の対応をお願いしたい。

教育としてのキャリア支援を：

- ・ このプログラムは学生のためになっているのか？を第一に考えたい。就職活動を通じて学生は成長する。就職活動の中で自分は何者かを考え、いろんな企業との出会いを通じて就職活動の中で学生は成長をしている。コンソは企業と大学とのパイプを強くしながら学生を応援している立場を作ってきたと思っている。

エージェント利用について：

- ・ マッチング選考の基準がわからない。フロー図があればわかり易い。
- ・ エージェントやコーディネーターの役割は理解するが、どうしても、エージェントは最終手段という位置づけかと考えるので、この事業をもっと違う形にできないかと考えている。企業を取材する対象学年が最終学年であれば、期間を費やすことで就職活動の時間に影響を及ぼす。また、エージェントからの相談に対しては、学生が断り切れない。お世話になっているので勧められた企業に就職しなければならないのか、という相談は毎年複数件数受けるので、そういったことにならないのかという心配もある。何か違う形でのイベント、もう少し県内企業の魅力を学生に伝える形でのイベントになれば嬉しいと考える。
- ・ エージェントを通じたインターンシップで、良かったら採用すると言われていたが結果的に採用にならなかったことがあった。就活の時期に2週間拘束され無休で働いて採用しないという業者もいる。業者が乱立している状態もあるので、コンソには怪しい業者をできるだけ学生に接触させないように情報共有してもらいたい。

コンソの公益性について：

- ・ コンソは公益性があって県費や国のお金を預かって運用している団体。賛助企業から集めたお金であるが、それを特定の企業に使うのは、公益性や公正性という点ではクリアしておきたい課題としてあるのではないかと。
- ・ 参画企業・大学からのお金を個人のエージェントに使われるのもどうかと思う。

賛助会員企業：

- ・ 今回、賛助会員のメリットが無いというのがはっきりわかったのはよかった。それをどうするのか？学生と賛助会員をどう繋げるのか、繋げるメリットを詰めて考えていかないといけないと思う。
- ・ 賛助会員企業を増やすのか、それともその先にある県内就職か？どちらが焦点なのか？
- ・ 賛助会員企業数を増やしたいのであれば、大学に来た企業にコンソパンフを渡して勧誘していくのもひとつ。

委員からの意見を受け、森委員長はこの懇談内容については引き続き検討していきたいとし、各大学もエージェントを利用する体験の中でメリットとデメリットを感じており、実際にエージェント利用学生の保護者からの相談もあるというのが現状。これをひとつの提案・問題提起として考えてもらい、時間をかけて、メリットやデメリットは何か引き続き検討いただきたいと伝えられた。

II. 報告事項

1. 2022年度キャリア委員会委員校について

事務局より資料1に基づいて、2022年度キャリア委員会委員一覧の紹介があり、各委員校より各校におけるキャリア支援の現状と問題意識について情報共有がなされた。

2. 事業委員会運営に関する申し合わせについて

事務局より資料2に基づいて、今年度事業委員会運営で適用される申し合わせについての説明がされ、旧申し合わせとキャリア委員会申し合わせからの変更点について共有された。

III. 協議事項

1. 2022年度キャリア委員会事業計画（案）について

資料3に基づいて事務局から2022年度キャリア委員会事業計画案詳細・達成目標・活動指標についての説明があり、全ての事業計画案が原案通り承認された。

IV. 連絡・調整事項

1. 2022年度のキャリア委員会開催予定と主な議題について

事務局より2022年度のキャリア委員会開催予定と主な議題について案内があった。次回の第2回キャリア委員会は、10月開催を予定しているが、懇談事項で課題となった事案について別途委員会を開催する可能性があることが共有された。

以上をもって、第1回キャリア委員会は終了した。

以上